

「阿南市合唱祭」の経緯

阿南合唱団 団長 近藤 博之

阿南市の音楽文化の中で、重要な役割を果たしてきたと自負する、「阿南市合唱祭」発足の経緯と歴史について、紹介したい。

平成18年の阿南市・羽ノ浦町・那賀川町の合併を記念して、同年3月12日(日)に「合併記念コンサート」が開催された。当時、阿南市内には「阿南合唱団」、「ぎんの鈴」、「レディスアンサンブル」、「聖母幼稚園合唱部」の4団体があったが、合併により「コール羽ノ浦」、「ブルースカイ」、「那賀川童謡を歌う会」が加わり、7団体となった。阿南市には、当時も今も県下に誇る唯一の音楽ホールがあり、記念行事の開催には最適であった。

当時、阿南市内では、カラオケ大会が市民会館で大々的に行われていたが、合唱は高齢者中心の趣味の会であり、相互の連携や発表会を通じ

た一般市民との交流も全くない状態だった。一般の市町合併で、那賀川を挟んだ両岸に先祖代々住んできた人たちが、新生阿南市として出発することを祝い、各合唱団および一般市民の方々と合唱を通じた交流を図ることを目的として、「合併記念コンサート」が開催された。

このコンサートを、各合唱団とも大変楽しむことができ、また市民の方々の反応も良かったため、これを第1回とする「阿南市合唱祭」として、翌年以降も開催されることとなった。とりわけ、ほとんどの合唱団が「夢ホール」の舞台に立つのは初めてで、その響きの心地よさを実感したことも、この動きを後押しした。観客動員には、全出場者が熱意を持って勧誘した結果、第1回約400人、第2回約450人の来場者を得ることができた。

第3回からは、大勢の来場者に対して、われわれの拙い合唱では申し訳ないという反省から、徳島県を代表する合唱団を特別出演として招き、素晴らしいハーモニーを聴いていただくこととした。この効果は大きく、第4回以降は、ほぼ安定して

500人を超える来場者を迎えることができた。この実績が阿南市当局にも認められ、第7回までは「阿南市後援」であったものが、第8回以降は「阿南市との共催事業」となった。

毎回出演をお願いしている県下有数の各合唱団も、阿南の「夢ホール」で30分も発表できることを大いに喜んでいただいている。県下唯一の音楽ホールを持つありがたさを、改めて実感する次第だ。ホール建設当時に、「県下に自慢できる施設を作ろう」というコンセプトで、音楽ホールを選んだことは、先見の明があったといえよう。

以上のような経緯で、「合唱祭」が各合唱団活動の大きな柱になるとともに、市民が合唱に接する機会となり、合唱団への入会を希望する契機にもなっている。14年続いたこの行事が、コロナ禍で今年も含めて3年連続で中止となったが、「阿南市合唱祭」が今後とも、阿南市の音楽文化の礎の一つであり続けることを、切に願っている。

あなん文化紀行は
偶数月号に掲載します。

